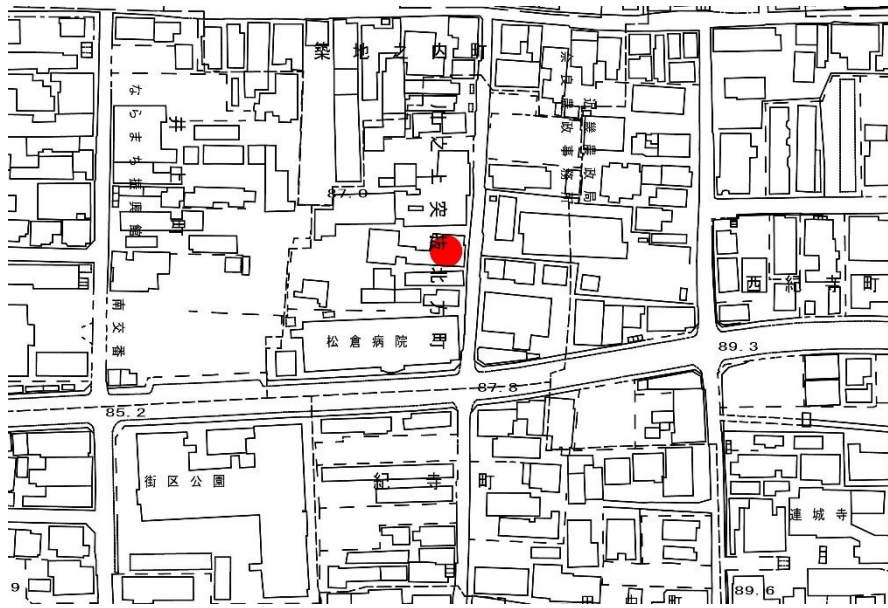


歴史的風致形成建造物 指定台帳

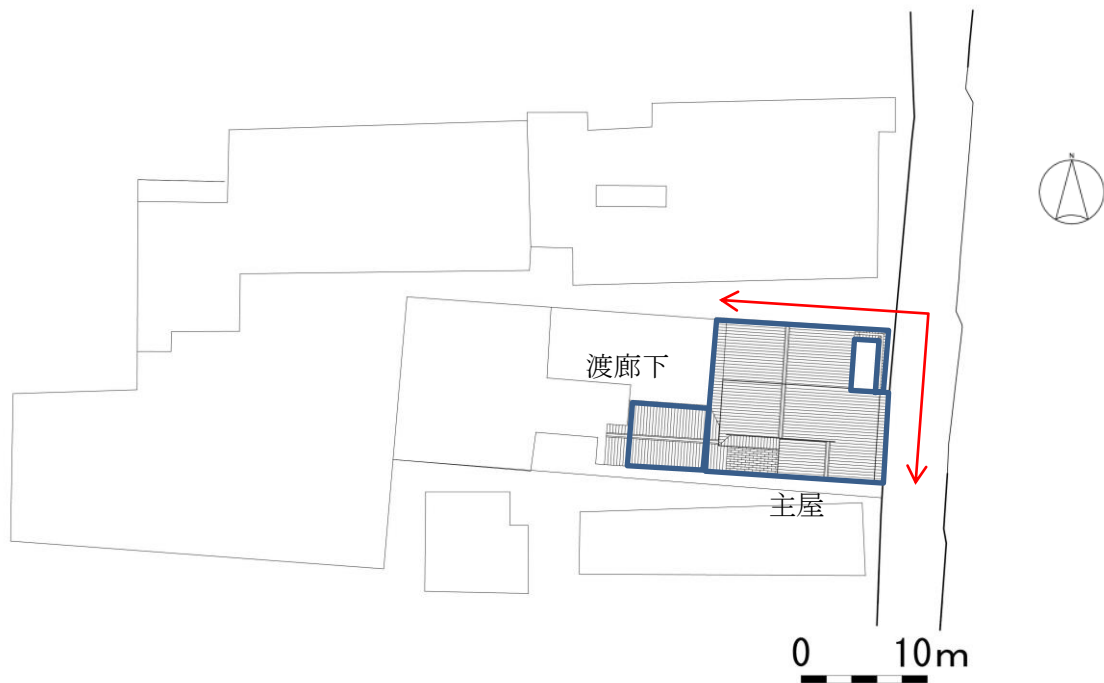
指定番号	21	名称	EENA HOUSE	
指定年月日	R2.2.3	所在地 (指定地)	奈良市川之上突抜北方町 18 番地 5	
指定建造物	主屋	建築年代 ・概要	昭和初期	木造つし二階建、切妻造一部入母屋造、平入、棧瓦葺、高塀付き
指定建造物	渡廊下	建築年代 ・概要	昭和初期	木造平屋建、切妻造、棧瓦葺
位置 ・ 歴史	<p>奈良町の南部に位置する川之上突抜北方町は、昭和 11 年に開設した市内循環道路によって分断された川之上突抜町の北側の町で、通りの北に興福寺の五重塔を望むことができる。当家敷地は、昭和 3 年に現当主の祖父である中西新五郎が通りに東面する土地を購入し、路地を設け貸家を建てるなどの宅地開発を行った一角にある。新五郎が建てた家の中では規模が大きく、落棟座敷に前庭が設けられている。昭和 45 年頃まで貸家として使用され、その後、新五郎の息子夫婦が入居して以降は中西家が居住している。現在は、住宅として使用する傍ら、日本文化を体験するカルチャースクールとしても利活用されている。</p>			
建物特徴 ・ 改修履歴	<p>当家は、川之上突抜北方町の通りに東面して建つ木造つし 2 階建てで、北側は平屋建ての落棟座敷とし、その前面に前庭、高塀を設ける。出格子、虫籠窓、袖卯建、高塀など、町家の伝統的な外観意匠が整えられている。内部は、南側の土間に沿って 1 列 3 室、落棟座敷に 2 室並べ、2 階は、表側をつしとして奥に 2 室並べる。</p> <p>落棟座敷の表側の居室には炉が切れ、茶室として整えられている。高塀は潜り戸付きで、前庭を露地とし、前庭南面の縁を待合としたのであろう。また、土間後方は高い吹抜け空間とするのが通例であるが、当家は緩勾配の銅板葺屋根の下屋として高さを低く抑え、2 階座敷の背面と南面に縁を廻し、大屋根南西隅を入母屋造とする点に特徴がある。</p> <p>渡廊下は、縁先に昭和後期のガラス障子が入るが、主屋同様整った意匠をよく伝える。</p> <p>当家は、規模が大きく、一文字瓦を用いた外観は近代的で、落棟座敷の茶室や、2 面に縁を廻し屋根を入母屋とした 2 階座敷を設けるなど、立派な造りをしている。</p> <p>改修履歴：昭和 40 年代～50 年代 みせの間を改造。階段をみせの間から土間奥に移設。 昭和 60 年代 土間奥を床張りの台所に改造。台所の上手の部屋を洋風化。 令和元年 主屋の屋根葺替、高塀の腰板張替、外壁塗替</p>			
活用	住宅兼カルチャースクール			
価値	伝統的な外観ながら 2 階座敷の構成は斬新で、茶室や露地を備えており、町家の暮らしにみる歴史的風致及び茶の文化にみる歴史的風致の維持向上に寄与している。			



歴史的風致形成建造物 指定台帳



付近見取図



-  該当建造物
-  公開範囲

配置図